

平成二十四年度 入学試験問題

国語

第三回

【注 意】

- 一、試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- 一、問題は一ページから六ページまでです。
- 一、解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- 一、問いの中で、字数の指示がある場合は、句読点、記号等も字数に含みます。
- 一、解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

1 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

日本の多くの湖に放流されたブラックバスは、湖の魚類群集に影響を与えており、それが湖の外來種問題を大きくしました。そのため、⁽¹⁾ 外來種問題が話題に上ると、湖に侵入したブラックバスのことが典型的な例として挙げられます。

ブラックバスが初めて日本に移入されたのは一九二五年のことで、芦ノ湖に放流されました。その魚の分布が国内で急速に拡大したのは、一九七〇年代になってからで、それには、積極的な密放流があったと考えられています。また、ほぼ同時期に、ブラックバスと同じ北米大陸原産のブルーギルも日本の多くの湖で見られるようになりました。この魚も稚魚や魚卵を食べることで、在来の魚群集に大きな影響を与えていると考えられています。そこで「侵略的外來種」というレッテルを貼られ、駆除の対象になっています。日本の湖には、魚を食べる魚（魚食魚）が少なかったため（魚食魚の生態的地位が空いていたため）、ブラックバスやブルーギルが多くの湖で容易に増殖できたのでしょう。日本では、ほとんどの湖で漁業振興のため、⁽²⁾ 有用魚種の放流が行われています。そのため、魚を食べるブラックバスとブルーギルの湖への侵入は、漁業に大きな影響を与えました。その結果、多くの漁業関係者がそれらの魚を駆除するために苦労しています。

私は、これらの魚の密放流を「ココロヨク思っています。それは、その魚が外來種であるからというわけではなく、その放流が、漁業者をはじめ、湖を利用してのさまざまな人々の了解を得て行われたわけではないからです。つまり、一部の人が、自分たちの目的のために、密かに放流をしているからです。

ただし、その一方で、漁業関係者が行っていることにも疑問を感じる場合があります。なぜなら、彼らも、さまざまな湖や川に魚を放流しているからです。

⁽²⁾ 今、国内のほとんどの湖にはワカサギが生息しています。ワカサギはブラックバスとは異なり、日本の在來種です。ところが、昔は海跡湖と呼ばれる限られた湖だけに棲む魚でした。海跡湖とは、川の水が海に流れ込む河口につくられる湖です。川や海流のはたらきによって海岸に砂が運ばれ、その一部が海から切り離されて湖が誕生しました。その湖は河口にあるので、海の潮が満ちると、海水が湖内に流れ込みます。したがって、海跡

湖は、水中の塩分濃度が、淡水湖（内陸にあって、海水が入らない湖）よりも高いところ（汽水湖と呼ぶ）なのです。海跡湖の例として、茨城県の霞ヶ浦や北海道のサロマ湖を挙げることができます。ところが、ワカサギが淡水湖にも、⁽¹⁾ テキオウでできることがわかり、一九〇〇年代の初頭から、漁業者によって積極的に多くの湖に放流されてきたのです。

諏訪湖は、ワカサギ釣りやワカサギの発眼卵の出荷地として全国的に有名になっていきます。そのため、ワカサギは諏訪湖の「コユウ種だ」と勘違いしている人が少なくありません。ワカサギが諏訪湖に生息するようになったのは、一九一四〜一九一五年に霞ヶ浦にいたワカサギを、漁業振興の目的で諏訪湖に放流したためなのです。

したがって、湖にブラックバスが入って来ると、「生態系が壊される」と言って問題にしている漁業者自身が、全国の湖の魚群集を、どこでも同じようなものに変えてきたのです。本来は地域ごとに異なる魚群集が湖につくられていたものを、少数の漁業対象魚種を湖で増やし、⁽²⁾ タンジュンな魚群集をつくってきたということができてしまう。しかも、新たな湖に侵入したワカサギも、ブラックバスと同様に、⁽³⁾ 生態系を攪乱します。そのことは、白樺湖で行ったバイオマニピュレーションによって示されました。すなわち、その湖でワカサギの個体数が変化すると、動物プランクトン群集が大きく変わり、その影響が生態系全体に及ぶのです。

これと同じことは、川にもあてはめられます。日本の川の魚群集を調べてみると、多くの川にアユが生息しています。しかも、その多くは、琵琶湖産のアユです。湖に棲んでいるアユはワカサギと同様にミジンコを好んで食べますが、川にいるアユは、石の上に繁茂する附着藻類を主な餌としています。そうになると、川に放流されたアユも、川の生態系を攪乱しているといえるでしょう。

すると、日本全国の多くの川や湖の魚群集は、主に漁業関係者によって人為的に変えられ、それに伴って生態系も変えられてきたといえます。そう考えると、漁業関係者の行為は、ブラックバスを放流した人の行為と同じといえます。しかしながら、両者の間には、⁽⁴⁾ 大きな違いがあります。それは、ブラックバスの放流は秘密裏に行われたのに対し、ワカサギやアユは漁業権を得た漁業者によって、公然と放流されてきたという事です。すなわち、多くの人がそれを認めてきたのです。

ここで私は考えました。生態系を攪乱するという事では、ワカサギやア

ウはブラックバスと同じなのに、なぜ、ワカサギやアユの放流は、ブラックバスの放流と異なり、問題にされないのでしょうか。恐らくそれは、⁽⁵⁾ワカサギとアユの食性がブラックバスと異なっているからでしょう。

生物多様性が関心を持たれるようになった今、陸上の生物群集はもとより、湖や川に棲む生物群集の多様性の話もよく耳にするようになりました。そして、そのとき話題に上る生物のほとんどは、メダカ、カダヤシ、ブルーギル、ブラックバスなどの魚です。まるで、多くの人たちは、水域に棲む動物は魚だけと考えているようにすら思えてきます。すなわち、その人たちは、魚にしか関心がないのでしょうか。特にブラックバスが水域に入ってくると、「生態系が壊れる」という声が大きくなるのは、ブラックバスが魚を餌とするからではないでしょうか。言い換えれば、多くの人たちが、ワカサギやアユが餌とするミジンコや水生昆虫、附着藻類などを軽視していることを示しているように思われます。すると、その人たちは、生物種を差別しているといえるでしょう。これはおかしいことです。なぜなら、彼らが軽視している生物が、食物連鎖を介して、彼らが重視している魚の命を(オ)ササえているからです。また、これらの生物は水質にも大きな影響を与えているのです。そのように、水域の生態系で、極めて重要な役割を果たしている生物を軽視しているということは、⁽⁶⁾多くの人が生態系を理解していないことの現れではないでしょうか。

(花里孝幸『生態系は誰のため?』)

★有用魚種：人間にとって商品価値の高い魚種。

問一 — (1)「外来種問題が話題に上ると、湖に侵入したブラックバスのことが典型的な例として挙げられます。」とありますが、ブラックバスによって起こった問題とはどのようなことですか。次のア〜エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 漁業関係者ではない人々によってブラックバスが積極的に密放流され、多くの湖で増殖してしまった問題。

イ ブラックバスが、「侵略的外来種」というレッテルをはられ、駆除の対象になってしまった問題。

ウ ブラックバスが、漁業者をはじめ、湖を利用して様々な人々の了解を得ないで放流されてしまった問題。

エ 一部の人が自分の目的のために密かに放流したブラックバスが、有用魚種を食べ、漁業や生態系に影響を与えてしまった問題。

問二 — (2)「今、国内のほとんどの湖にはワカサギが生息しています。」とありますが、ワカサギはどのようにして国内のほとんどの湖に生息するようになったのですか。本文の表現を用いて、解答らんに合うように答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

《六十五字以内 生息するようになった。》

問三 — (3)「生態系を攪乱します。」とありますが、具体的にはどのようなことですか。五十字以上六十字以内の一文を探し、最初と最後の五字を抜き出さない。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問四 — (4)「大きな違い」とありますが、その指す内容について五十九字の箇所を探し、最初と最後の五字を抜き出さない。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問五 — (5)「ワカサギとアユの食性がブラックバスと異なっている」とありますが、どのように異なっているのでしょうか。本文の表現を用いて五十五字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問六 — (6)「多くの人が生態系を理解していない」とありますが、多くの人が生態系を理解するにはどうすべきでしょうか。本文の表現を用いて、解答らんに合うように答えなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

《四十五字以内 認識するべきである。》

問七 — (ア)〜(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア ブラックバスやブルーギルの湖への放流は、一部の人が自分たちの目的のために密かに放流したので反感を買い、それが原因で現在では侵略的外来種として駆除の対象となっている。

イ アユは本来、湖に生息する魚である。川に放流されたアユは湖のアユとは餌にするものが異なり生態系を攪乱するにもかかわらず、漁業関係者は漁業振興のため積極的に放流している。

ウ 多くの漁業関係者がワカサギやアユを駆除しようとしているのは、外来種ゆえに生態系を攪乱すると考えるからであり、魚を食べず、藻類を餌とするのであれば問題ではない。

エ 漁業関係者が漁業振興のためさまざまな湖や川に漁業対象魚を放流した結果、たくさん魚が住むようになったので、豊かで多様な生態系が実現することとなり、多くの人に歓迎されている。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

「あたし、こんど、生徒会の書記に立候補することになったよ」
とおねえちゃんの歌子がいい出したのは、夏休みがおわり、学校が始まってしまうことだった。

お盆がおわると同時に、[★] みじかい夏休みもおわってしまうのだが、チヅルはまだ夏休みボケで、学校にいつてもボーッとしていることが多かったから、歌子が書記に立候補すると聞いて、

（中学校は、休みがおわったらすぐに選挙なんかするのか。いそがしいなア）
とびっくりしてしまった。

「そうか。書記か。そういうのは、一年生が出ていいのかい」
オトーサンが嬉しそうにいい、ご飯をよそっていた母の清子も、

「一年生のうちから、あんまり目立つことすると、まずいんじゃないの」
と面倒臭そうにいいながら、顔はすっかり、にこにこ笑っているの

だった。
そういうのは、もうまったく、⁽¹⁾ 歌子が小学校の卒業式で答辞を読むことになったときとおなじ態度だった。

「あしたから、推薦人や選挙対策本部の人たち、ウチに集まることになったから」
と歌子はなんでもないことのようにいい、とたんにチヅルはわくわくした。

選挙タイサク本部というのがいかにも本式的感じがして、やっぱり中学校はちがうとすっかり感心させられてしまった。

翌日、チヅルは掃除当番をおえるなり、家にとんで帰った。
いつものようにハイシャ車庫や材木置き場で遊ぶどころではなくて、なんと

んとしても選挙タイサク本部というのを見てみたいのだった。
家に帰ってみると、歌子のほうが先に帰ってきていた。

二階の部屋を掃除しているらしく、何度も階段を上りおりしては、忙しそうに

そうにしている、チヅルなんか目に入っていないようだった。
なんとか歌子の興味をひきたくて、茶の間のソファに寝そべったり、で

んぐり返りをしたり、逆立ちをしたりしてもんでダメで、そのうち歌子がカルピスをつくり出したので、チヅルは思いあまって、台所と茶の間を

30

25

20

15

10

5

しきるガラス引き戸によりかかって、
「おねえちゃん、チヅルのもつくって」
と甘ったれた声でいった。

カルピスが欲しいのはほんとだったが、それよりも歌子にかまってほしいのだった。

「なに、ほしいの？ 自分でつくんなさいよ。あたし、忙しいんだから」
歌子はあるとあって、お盆にカルピスのはいったコップをのっけて

二階にいつてしまった。
悔しくてブスふくれていると、ふと台所の茶ダンスの中に、うす焼きセ

ンベイがお菓子鉢にはいつているのが見えた。
いつもだったら、食べていいといわれてないお菓子は食べないのだけれ

ど、⁽²⁾ なんとなく、おもしろくない気分だったので、チヅルは思いきって
ガラス戸をあけて、うす焼きセンベイを五、六枚つかんで、やけっぱちの

ようにぼりぼりと食べた。
二階からおりてきた歌子は、茶ダンスの前にすわりこんでセンベイを食

べているチヅルを見て、
「チヅル、あたしが買ってきたお菓子、かってに食べちゃダメじゃない！」
とどなった。

「きてくれるみんなのために買ったのに。お母さんにいつけるよ」
歌子はうわずった声でいつて、チヅルを押しつけて、茶ダンスの中のお

菓子鉢を取りだし、^A 二階にもつていこうとする。
階段を五、六段のぼったところで、

「チヅル、外に遊びにいつていいよ。友だちがきてても、浮かれあがって、
話に入ってきたらダメだよ。みんな、だいたいな用事でくるんだから」

^B いつて駆けあがっていつた。
チヅルは ^C 見上げていたが、ふいに目じりに涙が浮かんできた。

（おねえちゃんは、チヅルより選挙のほうがだいじなんだ）
と思うと、熱いお湯をのんだように、喉から胸にかけてのあたりが、

カッと焼けるようだった。
母の清子は、小さなことでもキンキン怒るのだけれど、そういうときは、

せいぜいツネツネたり、ゲンコツで叩いたりするくらいなのに、黙ってお菓

子を食べると、お客さんがきてるときにふざけるのふたつには、鬼のように怒りだすのだった。

60

55

50

45

40

35

小学校に上がってすぐのところ、学校から帰ったチヅルは、神棚にお菓子箱がのっているのをめざとく見つけて、イスにのぼってお菓子箱をとった。包み紙を破って、フタを開けると、中に D モナカが入っていた。

清子が、そんなリッパなよそゆきのお菓子を買うはずはないから、お客さんが持ってきたのに違いなかった。

清子は買物に出ているらしくて、食べていいかどうか聞けなかったのと、どうしても、すぐに食べたかったのとで、チヅルは五つも食べてしまった。

ほんとは、ひとつかふたつにしておこうと思ったのだけど、食べてみたらおいしいので、ついつい五つも食べてしまったのだった。

買物から帰ってきた清子は、すぐに気がついて、

「チヅルは泥棒になった。口のいやしい子は、気持ちもいやしいんだ。泥棒したんだから、警察につれていくよ。お父さんが帰ってきたら、警察につれてもらおう」

とすごく怒り、チヅルは両手をしばられて、奥の座敷の柱に縛りつけられてしまった。

「もう、しないよオ。もう、だまって食べないよオ。ごめんなさい。もう、しないよオ。いやしいこと、しないよオオ。ケイサツに連れていかないでエエ」

と泣きじゃくりながら謝っても、清子はぜんぜん許してくれずに、知らん顔で夕ご飯をつくっていた。

このまま夜になっても縛られているんじゃないか、オバケが出てきても逃げられない、それにケイサツにつれていかれたら、すごくイジめられるかもしれないと次から次へと妄想がわいてきて、ますます泣けてきた。そのうち泣くのをやめようとしても、しゃっくりが止まらなくなり、息が苦しくなってくるほどだった。

あたりはすっかり薄暗くなり、チヅルも泣きすぎて体が熱くなってきたころ、外に遊びに出ていたおねえちゃんの歌子が、そと座敷にはいつてきて、紐をほどこれた。

「お母さんが、ほどこいていいっていったんだよ。あのお菓子、よそに持ってくんで買ってあったヤツなんだって。チヅル、いやしんぼしたから、怒られたんだよ。ちゃんと謝っておいでよ」

(3) 歌子はひそひそ声でいった。

チヅルは泣きすぎて、ぐったりして立ち上がることもできないほど

95

90

85

80

75

70

65

だったので、膝でいざりながら台所までいって、きちんと正座して謝って、ようやく許してもらった。

その夜は、ご飯を食べても吐きそうなほど気分が悪くて、すぐに寝てしまったけれど、目がさえてぜんぜん寝つかれないでいると、隣の布団で寝ていた歌子が、ごそごそとチヅルの布団に入ってきて、

「お母さんはきつと、ムシのいどころが悪かったんだよ。あんなに怒るのは、ひどいよね。おねえちゃんは、チヅルの味方だからね」

耳元に息を吹きかけるように小声でささやいて、そうと手を握ってくれた。

泣き疲れて、すこし発熱しはじめていたチヅルには、ひんやりしたおねえちゃんの掌はふわふわと気持ちよくて、⁽⁵⁾ たかぶっていた気分がすうつと鎮まってゆくようだった。

チヅルはおねえちゃんが前から好きだったけれど、そういうことがあつて、ますます好きになっていて、それからは清子に叱られても、おねえちゃんが味方だと思つと、あんまり悲しくなくなり、泣かなくなっていたのだった。

(なのに、おセンベ食べたくらいで、おかあさんにいつけるっていった) チヅルは見捨てられたような惨めな気持ちになり、⁽⁶⁾ 息がとまりそうだった。

おねえちゃんは中学生になってから、二階に部屋をもらって、ただでさえ、かまってくれなくなっていたのに、今はかまうどころか、チヅルが嫌いになったんだと思えなかった。

(いいんだ。チヅルだって、おねえちゃんなんかきらいだ！)

チヅルは茶の間のソファにとびのつて、ソファの背にしがみつくようにして、涙をこらえた。

(氷室冴子『いもうと物語』)

★みじかい夏休み…この物語の舞台は北海道であり、当地の夏休みは短い。

問一

——(1)「歌子が小学校の卒業式で答辞を読むことになったとき」とありますが、その時の両親はどのような気持ちだったと考えられますか。五十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

120

115

110

105

100

問二

——(2)「なんとなく、おもしろくない気分だったので」とありますが、どうしてそのような気分になったのですか。本文の表現を用いて四十文字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスを用いること)

問三

——(3)「歌子はひそひそ声でいった。」とありますが、歌子はなぜこのように話したのでしょうか。最もふさわしいものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア お母さんにしかられ、長い間柱に縛られていたチヅルは非常に興奮していたために、普通の声で話すと余計に興奮させてよくない事態をまねいてしまうと思ったから。

イ お母さんはチヅルのしたことに對してものすごく怒っていたので、許してもらうためには相当な覚悟と努力が必要であることを伝えようと思ったから。

ウ お母さんはお菓子をお母さんに知られないように教えるように行動すればよいのかをお母さんに知られないように教えてあげたかったから。

エ お母さんはもうチヅルのことをすっかり許していたのだが、行きがかり上、それを言い出すことができずにいることを冷静に伝えようと考えたから。

問四

——(4)「ムシのいどころが悪かった」とありますが、これはどのような意味ですか。十字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスをう用いること)

——(5)「たかぶっていた気分がすうつと鎮まってくよゆうだった。」とありますが、チヅルの気分が鎮まった理由として、発熱はじめていたチヅルにとってひんやりとした姉の掌が気持ちよかったということがありますが、もう一つの理由はどのようなことですか。十五字以内で説明しなさい。(句読点も含み、必ず一マスをう用いること)

問六

——(6)「息」とありますが、「息」を使った次の一～五の慣用句の意味を、後の「意味」ア～オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

- 一 息が合う
- 二 息が長い
- 三 息をのむ
- 四 息をつく
- 五 息がつまる

「意味」

- ア ひと休みする。
- イ 調子や気持ちがあう。
- ウ おどろいてはつとする。
- エ ひどくきんちようする。
- オ 一つのことを長い間続ける。

問七

A 〓 D に入る語を、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア ぎつしりと
- イ さつさと
- ウ ぼかんと
- エ きびきびと

問八

本文の内容に合うものを、次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア チヅルは歌子が生徒会の書記に立候補することを知って中学校はさすがにいろいろと違うことが多いと思つて驚くが、選挙に対して熱心になりすぎる姉を見て疑問を感じ、大事なことをまちがえるべきではないと思うようになった。

イ 歌子は生徒会の書記に立候補したことをきっかけにして、この際、自分に甘えてばかりいるチヅルをつきはなしたほうが良いと考え、これまでとはちがつてあえて冷たく接することによって自立させようと考えた。

ウ チヅルは歌子が生徒会の書記に立候補したのを最初は興味深く思つていたが、選挙に熱心になるあまり自分の気持ちをまったく考えてくれなくなったことから、これまでの温かい気持ちが偽りであったことを知り悲しくなった。

エ 歌子は生徒会選挙に立候補したことによって両親からも妹からも期待されたが、本人は選挙に熱心なあまり周囲のことを気にしたり、自分に近寄ってくるチヅルの気持ちも思いやったりする余裕がなかった。